

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきまして発言いたします、自由民主党牟田でございます。

選挙に負けて、不自由民主党になりましたけれども、その政権交代も絡めて、今回財政、特に交付税を中心にやっていきたいと思えます。

交付税に入ります前に、きょうのニュースで、100歳以上の方が日本で4万人を超したと。今、9月は敬老会等々あっていますけれども、本当に先輩たちが築いてくれた礎、そして、この日本を精いっぱい、そして地方を守っていくために頑張っていきたいと思えます。

先ほど言いましたように、私の最初の質問は財政であります。財政という質問、ややもすれば、非常に市民の皆さん方にはわかりにくく、退屈かもしれませんけれども、しかし、重要な項目ですので、精いっぱい頑張っていきたいと思えます。

財政というもの、ちょっと長くはなりませんかもしれないけど、合併のときからちょっとおさらいしてみたいと思えます。

3年半前合併をいたしました。合併いたしました、よく合併のときに使っていた例なんですけれども、ある家があったと。おじいさん、おばあさんが住んでいた。東京の長男から仕送りをもって生活をしていました。その東京の長男が、おいもきつかけんが、仕送りを減らすぞと。そしたら、生活できなくなった。隣の家の人に聞いたら、実はうちもそうなんだと。その隣の家の人に聞いたら、うちもそうなんだと。じゃ、一緒に住もうかと。一緒に住めば、電気の基本料金、ガス、水道、電話、いろんな基本料金も1つにできる。車もひよっとすると1台でいいかもしれない。それが合併であります。もちろん、今、ここで言った仕送りというのは、交付税のことです。

いろんな合併の効果があります。58名いた議員が、今現在30名。これも一つの合併効果かもしれません。

さきの衆議院選挙、政権が変わりました。これをさっきの家で例えるとどうということかと。今まで長男の息子が仕送りをしてきていた。ところが、これは弟にかわりました。ひよっとすっぎ、この弟はざっとなかかもしれません。先ほど言いました仕送りとは、交付税のことです。

民主党が政権をとられました。マニフェストには大変おいしいことが書いてあります。うわ、こがんなったらよかな、いいなど、そういうことが書いてあります。子ども手当、高速無料化、暫定税率の廃止、いろんなことが書いてあります。よく言われるのは、財源はと。

民主党の政調会長がこういうふうに言われていました。国の一般会計、特別会計、合わせて二百数兆円。その予算のうちの見直し可能なのが70兆円あるとして、その15%を削減すれば、その財源も出るだろう。あとは、埋蔵金ですか、そういうことも聞いております。じゃ、2008年の当初予算、213兆円、一般会計と特別会計を合わせた国の分ですね、218兆円の中で、削減ができないもの、見直しができないものは、国債の返還88兆円、財政投融资の10兆円、

社会保障費の64兆円、これをさっきの213兆円から引けば51兆円しかないわけですね。51兆円の中から10億円ひねり出さなきゃいけない。これはもう大変な作業だと思います。でも、この51兆円の中に何が入っているかと。補助金という項目があります。補助金という項目の中には、地方交付税があるわけですよ。地方交付税16兆円がある。この51兆円の中に16兆円の地方公共団体の交付税がある。じゃ、51兆円から16兆円引けば残り35兆円ですよ。35兆円の中から、幾ら財政のわかりにくかというても、その中から10兆円ひねくり出すとはやっぱり至難のわざだと思います。至難のわざというか、ちょっと厳しかという言葉もあれかもしれないんですけれども、本当に35兆円の中から10兆円も削られるのかと。やっぱり無理だと思います。そういう中で心配するのが、先ほど言った、35兆円じゃなくて地方交付税の16兆円も含んだ51兆円の中から削られるんじゃないかと、そういう心配があります。可能性は非常に大だと思います。

地方交付税は今まで聖域でした。ところが、民主党のマニフェストにもあるように、地方もいろんな基準から見て見直すと書いてあったのですかね、そういう中で、この交付税もいじられると大変なことであります。1つは、その影響がちょっと出てるんじゃないかと。先ほど、質問の中で、松尾議員だったのですかね、基金も凍結されてきていると、そういう心配が来ていると。

6月議会で国の臨時交付金が出ました。そのときに、6月時点で、秋に出ると言われていた地域活性化公共投資臨時交付金。これはもう、5月時点ですか、通達かなんかこういうのがありますよということで来ていたやつですね。6月の分は地域活性化経済危機対策臨時交付金。これは武雄市に4億5,000万円来ました。これはいろんな事業が、6月議会で皆さん方御存じですけれども、できました。今まで武雄の体力でできなかった、先延ばししていた、これもやらなきゃいけないなと思っていた分も、それである程度、学校整備、環境整備、道路の整備、それでできました。本当に武雄市——武雄市だけじゃなくて、多分全国の自治体助かったんじゃないのですかね。6月終わって、今度は秋。物すごく期待しています。やっぱり財源が不足している中、物すごい期待している中の秋に出ると言われていた地域活性化公共投資対策臨時交付金ですかね、これはどうなったのかと。本当、秋に出るといったら、9月時点でもう何ばしよう、何ばしようと考えよかんぎいかん時点ですよ。内容はこうですよ、こういうのに使いますよというふうに来てなきゃいけない。ところが、この議会にもまだ何の報告もない。どうなってるんだらうと。やっぱり、こういうのがあれば、先ほど言われた4番議員の松尾議員、黒岩議員、学校の面、少子化対策、いろんなユニットに使えると思います。それもどうなったのか。これは一つ影響が出てきているのかと。

まず、最初に、秋に出ると言われた臨時対策交付金はどうなっているのか。武雄市は、さっき言いましたように、交付金というのは物すごく大きいです。やっぱり、それが左右されるのが非常に心配です。まず、この点からお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

地域活性化公共投資臨時交付金でございます。

交付の趣旨といたしましては、今まで国が経済対策で地方に追加して実施してきた公共事業、これに伴って地方は負担をしたわけです。その負担に応じて金額を配分するという、従来の、今までの交付金につきましては、人口規模、財政規模で交付されておりましたが、今回は、今までの事業費、それをもとに計算される金額でございます。ことしの4月に国が制度を決定いたしております。7月に総務省、内閣府のほうから照会があつておりました、それを同月7月に回答いたしております。8月になりまして、内閣府、総務省のほうから通知があつております。これは、交付の限度額が6,400万円という交付の限度額の通知があつております。これは1次通知ということで、今後2次を調査して内示するという予定でございますが、いまだ2次調査があつておりません。1次調査分が、全体が1兆3,700億円程度で、その1次調査分で、全体で5,985億円全国に配分されておりました、43.4%の配分率で、武雄市には6,400万円ということになっております。

ただ、けさの新聞を読みますと、未執行分を回収するとかしないとかというそういうことが報道されておりました、今回内示分が未執行に当たるのかどうなのか、非常に危惧しております。未執行分として8.3兆円ということで、これが回収されるとなると、非常に地方としては厳しい状況になるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

武雄市の財政規模、大体200億円、税収四、五十億円、やっぱり大部分は交付税、国庫支出金とかいろいろあります、県支出金もありますけれども、頼らなきゃいけない。そういう中で、そういうのをいろいろいじられると、そして期待している分をいじられると、今後の市政の運営に大きくかかわってくるんじゃないかと。やっぱり物すごく心配なわけですね。今まで、私も一般質問でこれをしてほしい、あれをしてほしい、今回の議会もいろんな質問が出ます。要望が出ていると思います。そういう中で、それを行うにも、ただじゃできんわけですね。原資が必ず要るんですよ。何かやろうと思ったら、必ず原資が要る。知恵と工夫だけじゃなくて、原資も必ず要る。だから、そういう中で、ぜひ交付税というのを今までどおりいただければいただきたいし、そこがいじられるとなれば、市としても、自治体としても考えなきゃいけない。やっぱり体力を整えなきゃいけない。

合併して健全化計画というやつをつくりました。一番最初は新市建設計画、その後は健全化計画をつくりました。じゃ、平成20年度、健全化計画前の歳入、健全化計画を行う前の平

成20年度の予想歳入は188億円。健全化計画をやって何とか少なくしようと、188億円だったけど、実際去年の、平成20年の見込みは、ジャパネットたかたじゃないですけど、204億円なわけですよ。188億円で合併当初、平成20年度計画していたけど、何と204億円も来ていたと。16億円も予想より多いわけですね。

じゃ、歳出はどうかと。歳出は、計画では200億円。実際の歳出は202億円。16億円いっぱい入ってきたけど、2億円しか多く使ってない。これはどういうことかということ、当初ではそれだけ赤字だったんですね。赤字で計画させていた。何とか財政健全化計画でその赤字を埋めようというふうな計画でずっとやってきたわけですよ。何でこんなに違うのかと。ことしの平成21年度予算では、これは吉川議員がおっしゃっていますかね、もう9月議会で去年の予算を超えているわけですね。何でか。松尾議員もおっしゃっていました。市税が決して大幅に伸びたわけじゃない。何でか。交付税バブルなんですよ。バブル。よかったですね、バブル。でも、そのツケは必ず来ます。交付税バブルだったんですよ。本来ならば、計画どおりならば、健全化計画では5年間で52億円削減しないと、この武雄市はやっていけなかった。この交付税バブルのおかげじゃないかと。

何度も衆議院選の例を出しますけれども、選挙中よく聞いた言葉で、皆さん方よく聞いたと思います。マスコミの方もいろいろ書かれたと思います。よく書かれたのが政権交代ですよ、政権交代というのを書かれました。そして、もう1つよく聞いたのは、ばらまき。ばらまきという言葉、よく聞いたと思います。雑誌にも週刊誌にもよく載っていました。

やっぱり、そういうことだから財源が要る。財源が要るならどっかから取らなきゃいけない。そしたら、さっき壇上で言いましたように、交付税まで手をつけてこられたら、もう交付税バブルが一遍にぶっ飛んでしまうわけですね。やっぱり、そういうふうな交付税バブルというのは、本当に破裂したときに心配になります。

そういう中で、さっき言った政権交代、ばらまき、この議会でも吉川議員、そして高木議員が財政のことについて伺われました。固定資産税について質問されました。1億数千万円の減収になるというふうな答弁でありましたけれども、市長はその答弁の中で、具約マニフェストの中で、生活支援という面で企業支援という面を考えたのは政治判断、収入は病院等々からの収入でカバーできるんじゃないかというふうな答弁をされましたけれども、収入は固定資産税等々でカバーというのは、何となくこの交付税バブルがあつての減税措置じゃないかというふうに思うわけですね。もし、交付税バブルがなかったら、そういう段じゃなかったと思うんですよ。

1つ目の市長に対する質問ですけれども、交付税バブルあつての固定資産の減額じゃないのかという疑問の質問。もう1点は、100分の1.55だったんですけれども、それは100分の1.48でも構わないけれども、都市計画税というのは考えられなかったのか。この2点をちょっと先にお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、牟田議員がおっしゃるように、今回は交付税バブルということは私自身も感じています。ただ、この交付税バブルがなかったら、固定資産税の引き下げをしなかったかという問いに対してはノーであります。これは、あくまでも、さきに述べていますとおり、マニフェストはやっぱり重いものであります。私の具約マニフェストと、それともう1つが生活者支援、そして企業支援という観点からこれはやっていた。ただ、じゃその交付税バブルがなかった場合にどうしていたかという、先ほど議員おっしゃったように、事業には優先順位があります。その優先順位の下の方ができていなかったということです。私としては、言い方がいかどうかわかりませんが、交付税の大幅な増額には非常に感謝をしています。これがとまるとなると、今後また困ります。

それと、もう1点が、都市計画税については、これは考えておりません。あくまでも、固定資産税が主でありますので、武雄市をどっか区切って、今の時点で考えるというのはありませんので、固定資産税のみで1.55を1.48%にさせていただいたということでもあります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

何となく合併直前、合併直後の財政的な危機感が、さっきの交付税バブルじゃないけど、薄れてきたような気がするんですね。何で合併だったかというのは、1に財政、2に財政、3、4がなくて5に財政だったような気がします。ほかの要因もありますけれども、やっぱり何か危機意識が薄れてきたような感じがします。

これは、前の議員も質問ありましたが、例えば、職員数の適正化は、計画よりも進んでいるという答弁がありましたよね。あったですよ。人件費は下がっている。本当に計画どおり、計画以上に進んでいるのか。

最近、パネルがはやっているんで、僕も昼休み、ちょっとつくりました。（パネルを示す）

合併後の健全化計画前。健全化計画前は、平成20年度の人件費は41億7,000万円で見えていたわけですね。健全化計画前です、合併した後。41億7,000万円で計画していたわけです。これじゃいかんということで健全化計画が始まり、計画では平成20年、6億7,000万円を減しなきゃいけないということだと。差し引き35億円と。だから、健全化計画後は、平成20年の人件費は35億円じゃなきゃいけない。先ほど、適正化計画はより進んでいますというふうに言われていたので、20年度は35億円以下じゃなきゃおかしい。ところが、実際、平成20年

度は39億円になっていると。だから、これはひよっとすると、数は少なくなって、いろんなのがふえたのかもしれない。ですから、計画どおりに、近い数字はあるんです、41億円から39億円に、何億か下がっています。

これは1つの例ですけれども、こういうのを、もし交付税が減らされてきた場合には、どんどん押し進めなきゃいけないと思うんですよね。交付税が減らされて、急にながそつとやるんじゃないくて、やっぱりその直前にやらなきゃいけない。先ほどおっしゃった適正化計画は進んでいますと、安心してはいけないと思うわけですよ。

担当部長にお伺いしますけれども、この健全化計画、他の項目も含めて、どのように進捗させようと思っているか、そして、今後どのように進めようと思っているのかをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

確かに、19年、20年、非常に交付税がたくさん来たという実績はございます。ただ、我々が常に思っていますのは、こういった特殊な要因じゃなくて、通常の財政状況の中でどうしていくのかというのを常に考えていく必要があるというようなことで、健全化計画、そのように行革プランというのがございますので、行革プランの徹底した推進と見直した健全化計画のさらなる厳しい視点での推進を図る必要があるというのは常に肝に銘じながら取り組んでいるところでございます。今後ともそういう視点で取り組んでいきたいというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

なぜ、この健全化計画とか財政をこがん言うかということ、やっぱりこの後、民主党さんが政権とられて、先ほど壇上でも言いました交付税関係とか、いろんな不安定要素が多過ぎる。そして、今、もう未曾有の経済危機というか、先ほどから何度も言いますが、松尾議員が武雄市内の現状も言われましたよね。そういう中で、やっぱり健全化計画をきちんと進めなきゃいけない。もしくは、何かあったときの場合に、それに向けて努力しなきゃいけないと思うわけですよ。はっきり言いました、知恵はあって、行動力があっても、原資のなかぎ、できんわけですよ。繰り返しになりますけれども、いろんなことを要望して、要望されると思います。市長もそうです、教育長もそうです。皆さん方いろんな要望がある。それを実現して、市民の福祉の向上を果たすためには、原資が必ず必要になると。何かあったときに、きちんと対応できるような財政力じゃなきゃいけない。今まで、過去、一般質問で、周辺部

問題、少子化問題、いろんな問題言ってきました。そういう中でも、やっぱりこういう財政問題もきちんと踏まえた上で、また今度は、12月議会では、こういうのを踏まえて、こういうのをやっていただきたいというふうな質問をすると思うんですけども、やっぱり財政をきちっと握っておかなきゃいけない。

さっきの、例えば黒岩議員やったですかね、北方の体育館のさびをどうするのかと。体育館のちょっと傷んだのは。やっぱり、原資がなきゃできないわけですね。原資をとっておかなきゃいけない。

先日、私、初めて武雄小学校に行ったんですね。小学校に行ったら、やっぱり、黒岩議員が体育館のとで言ったのと同様に、体育館もさびだらけ、壁にはひびが入って、雨漏りもしている。雨漏り用のバケツが1個、2個じゃなくて、10個以上そろえてある。そういう状況なんですよ。何でも、やっぱり原資が必要です。そういう中で、きちんとやっていかなきゃいけないし、観光に関しても、イノシシ問題に関しても原資が必要であります。

例えば、6月議会に言ったたばこ税は、武雄市に去年の見込みというか、去年では3億8,000万円武雄に入ってきていたと。それが、タスポが要るようになって、地元のたばこ屋じゃなくて、チェーン店で買うことになって、よそに流れるんじゃないかと。3億8,000万円が半額になるぎ、幾らと思うですか。1億9,000万円ですよ。2億円近い金が武雄に入ってこんごとなるわけですよ。2億円入ってこんごどがんなる。やっぱりそういうふうな危機感が必要だと思うわけですね。合併後の財政に対する危機感が薄れてきたというのはこういうことだと思います。

私が聞いた範囲では、6月に私この質問しました。2億円も武雄の減収になるぎ大変だと思って、どういうふうに動かれたのかと。少なくとも、私はどういうふうに動いたというのは聞いていません。どのようなふうに動かれたか、ちょっと担当課の人、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

確かにたばこ税、19年度までは年々増加傾向で来ております。今おっしゃいましたように3億8,000万円、これが20年度で3億4,000万円、21年度が見込みで3億3,000万円ということで、4,000万円から5,000万円落ち込んで来ております。これは、確かにタスポの影響というようなことで新聞でも紹介されましたけれども、武雄市にとりましては本当に貴重な、自由に使える財源だというふうに認識をしております。この対応につきましては、とにかく市内の小売店で買っていただくというようなことを推奨するということしかないのかなと思っています。これにつきましては、牟田議員からもそういう指摘を受けておりましたし、我々

としてもこれはぜひ武雄で買っていただいて、前以上のたばこ税の収入をふやしたいというのは常日ごろ思っております。

今度の市報の10月号で、市内での購買の呼びかけを行うように準備をしているところでございます。ぜひ、健康も大事ですけれども、市内でのたばこの購入をよろしく願いしておきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

2億円入ってこんごとなるぎ、どがんなるか。ひょっとするぎ、2億円のあるぎ、武雄小学校の改修もちかっとできるかもしれん。北方の体育館の改修もできるかもしれん。

先日、西日本新聞さんのほうに大きく載った長野の風穴の観光資源もできるかもしれん。そういうふうな2億円がなくなるかもしれんとか、何か危機意識が薄れているような気がします。多分、10月に載せるとおっしゃいましたけれども、例えば、コンビニで買ったら、どこにお金が行くとかそういう調査も多分されていないような気がします。そういう危機意識が薄れていることが本当に心配なんです。これからも継続するわけですよ、武雄市は、そして財政は。

そういう中で、思い起こせば、3年半前、樋渡市政が誕生しました。そして、いろんな施策をやっていただきました。今、思い起こせばと言いましたけれども、まずワールドカップ、競輪場の開放。今まで市長に歴代頼んできたのに、できなかったことができた。これはよく覚えています。テレビロケの誘致、レモングラス、いろいろあり過ぎて、思い出せないぐらいいっぱいあります。何だかんだ言って、病院問題というのは、本当に大きな事業だったと思いますし、イノシシもまだ始まったばかり。新幹線もまだ先です。病院に関して、さっき言いました、そのまま。レモングラス課はやめるということですけど、病院はそのまま残るわけですね。

一つ、今回の議会の答弁の中で、がちよんときたことのあるわけですね。それは、上田議員のときの市長の答弁の中で、病院の荷がおりたのか、おろしたのかちょっと、今、記憶確かじゃないですけど、おろしたので、次は学校関係に移りたいと。病院の荷がおりたのですか。僕はまだまだと思うわけですよ。病院は、やっぱり根づくまで5年、10年、20年かかると思いますし、先ほど来のいろんな協議もやっていかなきゃいけない。やっぱり、いろんな政策を行う、そして政策はまだ継続していく。そういうことにもいろんなことで責任を持っていただきたい。

そういう中で、来年の市長の任期は4月までです。もちろん、その間一生懸命、例えば、イノシシに関して、新幹線に関して、病院事業に関して続けられると思う。そして、4月以降どういうふうにするか、市長の決意をお伺いしたい。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

思えば、3年半前、志を立てて市長にならさせていただいて、さまざまなことに市民とともに取り組んでまいりました。ドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」の誘致、レモングラス、イノシシ対策、そして社会的に弱い方々を本当に大切に、大事にしようということで、さまざまな施策を行ってきたときに、私はこの3年半というものが、市民と皆さんとともに夢を語り、その夢を種まきをしてきた。その種がだんだん育っていき、まだ芽が出ていないものもありますけれども、その成長が市民の皆さんとともに実感ができる。やっとそういう段階に達してきたと思います。

私は夢があります。この夢を形にすること。5年、10年、20年たつものもあります。この夢を形にし、そして生活者第一を視点に置きながら、その収穫の喜びを市民の皆さんとともに分かち合いたいと思っています。そのために、私は、来年の春の市長選に出馬することをここで表明をいたします。よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

水の流れは絶えずしてもとの水にあらずと、やっぱりずっと流れているわけですね。そういう中で、この武雄市の歴史も流れています。今、市長は3年半やってこられて、その流れの中で、いろんな流れが変わっている中で、やっぱり自分がやった事業、その後継続している事業、責任を持って市政に当たっていただきたいと思います。

先ほど壇上から言っています、財政、これはとりもなおさず非常に重要な、これは一番重要という位置づけは、何だかんだ言っても、命が一番大事ですよ。でも、生活も大事。そういうふうな原資もなければいろんな施策ができない。ぜひ、交付税、そして交付税の確保、もう1つは行政改革、いろんな面で頑張っていっていただきたいと思います。

では、財政問題の最後、水道事業です。

水道事業も幾つかの議員が質問されました。P F I、多分この議会で初めてP F Iという言葉を使ったのは私でありますし、そのときに最初に言ったのは水道事業であります。

先日の答弁の中で、P F Iはなかなか武雄市にとってはなじまないんじゃないかというふうなことで、多分水道法が変わった平成何年やったですか、そのときに私が質問したと思いますけれども、まず水道部に1点目の質問。P F Iを初め、委託、武雄市になじまないと言われましたけれども、実際は、例えば九州内でも、もう上水道出されているところあるんですね、四国でもあります。そういうことで動いて、実際のところを調査していただけるのかと。なかなかなじまないというふうにおっしゃいましたけれども、実際はやっているところ

はいっぱいあると。今も調査中のところがいっぱいある、これが1点目ですね。

2点目、やっぱり減収、水道料金を下げた分だけ、こういうふうな形で取り戻しましたというチャートを見ました。それはもうすばらしいことだと思います。さらにプラスして、これも前回から言っています、西部のごみ処理施設、そこへの水の売却の件はどのように進んでいるのか。まだ、ちょっと私聞かないんですよ。私、そこの議員ですけれども、聞かない。本当に動いているのか。力を入れていっていただいているのか。さっき言った危機意識はあるのか。この2点をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下水道部長

○宮下水道部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

まず、第1点目のPFI等の合理化といいたいまいしょうか、手法、これについては、一昨日もお話をさせていただきましたが、昨年度、全国各社十数社に提案をお願いいたしました。調査をいたしました。その時点で、各社出てきたものにつきましてまとめてみますと、一番受託ができるよという部分が、いわゆる水をつくるという部分、これが中心でありました。あと、水道事業につきましては、水を配るという分野とお金をいただくという分野と総合的な経営全般というのがございまして、こういう部分について一括してという部分での御提案がその時点ではなかったということでございます。現在のところ、さらなる提案を求めているということで、1番目の質問につきましては、現在も調査を継続してやっているということでございます。

それから、2番目の西部環境広域組合へどういうふうに関わりをされているのかということでございます。

ことしの5月の下旬に担当部局を訪問させていただきました。武雄市が持っている水道資源ということについて御説明をさせていただきました。これについては、上水に関する事、工水に関する事、こういったことについて地図等をもとに説明をさせていただきました。武雄市からの提案という形でお話をさせていただきました。現時点では、手法がまだ、現段階では未定であるということで、提案は承ったという形で、その時点でのお話はそういう形で、提案を検討していきたいということで、この事務局からは回答をいただいたところであります。

今後の進め方としましては、私ども資料を提供し、試算等もいたした形で提供いたしておりますので、さらに突っ込んだ提案を続けていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

水道企業に関しては、例えばPFIもそうですし、些事に調査していただきたいですし、せつかくそういうふうな、とれるかどうかわからないけど、ビジネスチャンスがあるんで、ぜひ積極的にセルをかけていただきたいし、前の議会のときには、市長もトップセールスをかけるということでしたので、頑張っていたきたいと思います。

つらつらと財政のことを述べてきましたけれども、何をやるにも少子化対策、すべての事業をやるにも原資は必要です。ぜひ、この財政の面、合併前、合併直後の危機感を持ってやっていただきたいと思います。

では、続きまして、防災のほうに移りたいと思います。

防災1番、インフルエンザであります。これはちゃんとインフルエンザということで通告出しています。

インフルエンザですけれども、これはもうつらつら皆さん方が質問されましたので、私が聞きたいのは——命大事ですよ、命大切、もちろん。これはもうそれを前提にしておいてすけれども、インフルエンザが流行したときの武雄市の経済はどうなる。集会場に集まらない、いろんな集まる場所には行けない、風邪引いた、学校も閉鎖、そしたら、親も仕事できない。旅館業も多分、観光業は厳しいでしょう。武雄市の経済が悲鳴を上げるかもしれません。これは全国的なことかもしれませんが、インフルエンザがはやったときの経済的な面の影響に関してのお伺い、要望なんですけれども、そうしたときに、例えば、お客がだれも来ない、従業員いっぱい抱えている、収入がない、大きな企業、会社、工場も閉鎖というか、休業しなきゃいけない。そういう中で、その期間仕事がない、お金が入らない、経営者はどうなる。お金払わなきゃいけない。そうしたときに、経済対策のそういうふうなインフルエンザ特別融資基金みたいなのができないもんだらうか。これは、インフルエンザがはやったら、本当に経済的な面で打撃を受けると思います。観光業の方とかてきめんだと思いますね。工場もそうかもしれません。例えば、全額でないですけど、利子補給とか、ぜひですね、これ、ネットで調べましたけれども、そういうふうな対策をとっている自治体はありません。ぜひ武雄市が一番で手を上げて、インフルエンザ対策特別融資基金みたいなやつを、例えば、利子補給でも構いませんので、そういうやつをつくって、市民の経済活動のほうに安心、安全を与えて、一種の防災の形で持っていけないものかということを質問したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

新型のインフルエンザ関係につきましての金融面の支援でございますけれども、これについては、先ほど4番議員のほうで答弁しました、昨年10月末に、国のほうでセーフティーネットということで緊急保証制度が創設されています。その中で、最近の新型インフルエン

ザの発生が確認されておりまして、国において、6月5日にそのインフルエンザ対策として、このセーフティーネットの中に、売り上げ関係が減少したときにはこの制度が使えるというふうな制度が6月5日に追加をされています。

その中身につきましては、これは国の制度、県の制度がございまして、県の制度の中では、限度額が5,000万円、貸し付けの期間が10年、据え置きが1年ということで、貸し付けの利率が1.8%の固定となっていて、そういう状況でございまして。それから、国については、普通保証は2億円以内ということで、これについては、比率については、金融機関の所定の利率ということで、国、県の制度がございまして。

そこで、市の制度につきましては、今、うちが持っています市の制度資金については、当然対象になっておりますが、新たな制度については、状況を見て、検討したいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議員の御質問を賜りながら、ちょっと思い出したのがあります。それはメキシコであります。メキシコは、NHKの国際放送を見ていたときに、最初に出てきて、急になって、経済活動ががたがたになったということで、地元の商工関係の団体が、利子補給を含めた対策を、今、講じているというのを拝見いたしました。

今、広がって、どれぐらい経済的なインパクト、ダメージがあるかというのが、多分私を含めて、だれもまだわかりませんので、ただ、これは本当に壊滅的になった場合というのは、私どもといたしましては、利子補給を含めて、すぐ対応できるような仕掛けはつくっておきたいなというふうに思っております。

いずれにいたしましても、こういうことはすぐ対応すると。そこが、しかも意味がないと思いますので、ちょっと、もう少し本格流行まで時間がありますので、勉強をさせていただければありがたいと思います。

これも、できれば民主党政権に、これ多分地方の対策じゃなくて、国策だと思うんですね。ですので、ここでもやはり社民党さんのやっぱり役割というのは非常に大きいと思うんですよ。本当に大きいと思うんです。この地方の声をつなぐ、政権与党につなぐ声として、ぜひ私どもの声を届けていただければありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

25番 牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ、武雄市はそういうセーフティーネットがあるんだよということで、商業者、経済のほうにも安心感を与えていただきたいと思いますし、先ほど市長がおっしゃいました、現在、野党

の不自由民主党ですので、政権与党のほうに何とか頑張ってくださいと思います。

防災のほうのその次の項。これはもう先日の豪雨ですよ。先日の豪雨なんですけれども、この前、きのうやったですかね、政策部長がおっしゃっていたゲリラ豪雨的なことで、なかなか大変だったと。これ、ゲリラ豪雨じゃなかったですよ。もう3日ぐらい前から雨降っていて、その日も豪雨と、もう出ておったですよ。ゲリラというのは、あんまり降らんとしてぐあっと降るのがゲリラじゃなかったですか。だから、そういうふうな中で、例えば、私、消防団に入っています。消防団の皆さん、各町頑張ってくださいましたし、本部も頑張ってくださいました。それも目の当たりに見えていますし、市の防災対策、しっかり頑張っているのも目の当たりにしています。

1つ思ったのが、この前みたいなときに道路がやっぱり寸断されるんですね。例えば、土のうをとりに行こうというと、若木町だと、朝日町がつかっているからなかなか行けない。武内のほうもつかっているんで、なかなか行けない。そういう中で、土のうを用意しようと思ってもなかなか行けない。例えば、この次から、そういうふうな予報で、もう豪雨で危ないなというふうな予想が立ったら、そういう土のうとかのあらかじめの用意を、例えば、詰めたのがあれば一番いいんですけれども、砂とかなんとかすぐ取りに行けるところはいいんですけど、そういう用意ができるような体制をとっていただきたいのが1つ。

もう1つは、この前だれかがおっしゃいましたね、一番の通信手段は携帯電話であるということでしたね。携帯の通じんところも、まだやっぱりいっぱいあるわけですね。例えば、戸坂峠の一部は通じらんわけですよ。あそこら辺行きよって、市役所に僕かけてたんですね。早う土のうば持ってきてという、切れるわけですよ。武雄市の防災を高めるためには、今、無線とかいろんな防災計画でされている分は、それはもう十分いいんですけれども、まず携帯電話の入らない地区の調査とかもやって、いろんな会社にお問い合わせするとかもやっていただければなというのが2点目。この2点をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

まず1点目は私のほうで答弁させていただきます。

確かに、今回の豪雨を経験しまして、議員御指摘の土のうの関係、これは確かに必要だなというふう感じたところがございます。

現在考えていますのは、各町にまずは1カ所、適地、小学校、中学校か公民館の敷地内に土と、それと各分団に土のう袋、これを配備したいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

携帯について、私からお答えをいたします。

去る2月23日に、武雄温泉保養村会の会長の正木誠一氏から私に対して、保養村エリアの携帯電話、これ全部のキャリアじゃないですけども、一部キャリアが伝わりにくいということがありました。ここで間髪入れずして、私どもで要望書をつくり直して、その1週間後に、当時の大庭総務部長、今、政策部長ですけども、要望書を直接、名前は伏せます、そのキャリア2社に行って改善を要望したところ、3月3日、もう要望があつて一月後には対応をきちんと考えるということで、今はもう大丈夫だそうです。

ここで1つの例を申し上げましたけれども、こういう聞こえにくい、私も市内全域動きますので、どこが聞こえにくいかというのは大体わかっているつもりでいます。これに加えて、先ほどの、例えば戸坂峠であるとか、競輪場から東川登に抜ける道も一部不通になりますけれども、皆様方で、これごらんになられている方々でも、ここは通じないよということがあれば、ぜひ私どもに教えてほしいというふうに思っております。これは、緊急のときもそうですけど、生活のインフラでもありますので、それは改善をしていく所存であります。

ただ、やっぱり、大庭政策部長とやっていてわかったのは、例えば、ドコモは通じるけど、何とかは通じないとか、あるいはソフトバンクは通じるけど、ちょっとドコモが厳しいとか、auがとか、ちょっとそれが非常に何かばらばらですので、それはちょっと非常に勉強になりましたので、いずれにしても、そういう御不便、不都合がある場合は、ぜひ私どもにお伝えしていただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

25番 牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

交付税、財政健全化計画、そして防災というふうに質問してきました。そして、きょう、市長の立候補表明もお伺いしました。ぜひ、これからの武雄市、そして市民の命を守るために、執行部の皆さん、市長も頑張ってくださいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、25番牟田議員の質問を終了させていただきます。